



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第35号 (H24. 2. 29)

宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 前田 哲司

しつ じつ ごう けん
質 実 剛 健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



自然科学探究発表会

2月21日(火)に附属中生が総合的な学習の時間で取り組んでいます「自然科学探究」の発表会を実施しました。1年生は1年間取り組んだ基礎研究の発表を、2年生は2ヶ年計画で取り組んでいます「探究ゼミ」の中間発表を行いました。1年、2年とも活発な発表が行われ、特に1年生の発表の中で優秀な研究については、附属中表彰式で表彰されます。また3月26日(月)に行われます「新入生学校説明会」にて発表してもらいます。

【1年生：優秀作品】をいくつか紹介します。

■児玉善洋「茶柱を立ててハッピーになろう」

研究のきっかけ…茶柱は、最近コマーシャルで紹介されているし、昔から茶柱が立つといいことがおきるとされている。しかし、僕は今まで茶柱が実際に立ったのを見たことが1回しかない。そのため、それほどめずらしいことだと思うので、茶柱の立つ仕組みを調べ、茶柱を必ず立たせる方法を見つけ、いっぱい立たせてみたいからだ。

まとめ…茶柱を立てる方法として…①茶柱になるのは茎なのでできるだけ茎が多く入ったお茶を使うこと。②急須は茶こしの目が粗いものを使うようにする。③8時間で12本立ったので、40分に1本立つということになるのでとにかく長い時間待てば茎が水を吸

茶柱は立つ。ことが分かった。■奥田敦子「家で作る氷が白くなる理由」 研究のきっかけ…家で飲み物を飲むとき氷を入れようと冷蔵庫を開けると、中に白い氷と透明な氷があった。母に聞いてみると、白い方が家で作った氷で透明な方が買ってきた氷だと教えてくれた。だからどうしたら家でも透明な氷ができるのか調べてみたいと思った。まとめ…水道水には、不純物が含まれている。だからそのまますべて凍らせてしまうと氷の中心が白く濁ってしまう。しかし、水は純粋な部分から凍る性質があるため、不純物が凍る前に冷蔵庫から取り出し、水を捨てれば完全に透明な氷を作ることができることが分かった。

■立野真咲「土の性質をさぐる」 研究のきっかけ…土によっては固いものもあれば柔らかいものもある。土には色々な種類があるが色や形、水の通りなど性質の違いと土の役割を調べようと思ったから。まとめ…4種類の土の中で、1回目に一番早く水を通したのは腐葉土だった。だが腐葉土は2回目、水を通すのが一番遅かった。2回目に水を早く通したのは砂だった。だが、1回目は水は一滴も出てこなかった。このことにより、水の量によって水を通すスピードは変わってくるということが分かる。



附属中PTA先進校視察研修

2月24日(土)・25日(日)2日間、附属中PTA役員3人と教頭・教諭で東京に視察研修を行いました。視察研修のテーマは「土曜学習講座開設にむけて!」です。テーマがどうしてこうなったのかと言いますと、第2回参観日にて「附属中と新理数科の6年間の基本構想について」説明させていただきましたが、その内容の中で「土曜学習講座について」是非取り組んでほしいという意見が保護者の中から数多く出されました。1年生の保護者からも「講座に参加したい」「何とかならないのか」という意見もいただき、次年度に向けてどう取り組んでいけばいいのか、大きな課題をいただきました。土曜講座学習会とは、中学3年生を対象に後期月2回、土曜の半日を利用して国語・社会・数学・理科・英語の補修学習を実施するもので、現段階は5回以上できればと思っていますが、保護者からは高校のPUSH並みに取り組んでほしいという声もいただきました。しかし、年間ともなれば運営面や経済面、内容、人的(教師)にどう図っていかねばならないのか検討していかなければなりません。そこで、PTA主催で独自に学習会等を運営している「杉並区立和田中学校」に視察を計画しました。また、本校は東京大学と連携しているのもので、この機会を利用して、また東京大学の教授から「東京大学附属中等教育学校」の紹介もありまして視察という経緯にいたりしました。今後視察で学んだことを役員会等で十分話し合いながら、保護者の皆様にもご意見を伺いながら、進めさせていただきたいと考えています。どうかよろしく願いいたします。



妻ヶ丘地区青少年育成協議会 生徒意見発表

平成24年2月24日(金)

2月24日(金)に妻ヶ丘地区公民館で「妻ヶ丘地区青少年育成協議会」における児童生徒意見発表会がありました。本校からは、1年A組の常盤大智くん、小林優花さんが附属中代表で発表しました。



■「将来に向けて」 1-A 常盤大智

僕は、将来なりたいものがあります。それは、医師です。僕にとって理想の医師とは、笑顔で明るく訪ねてきた患者一人ひとりの対応でき、その地域の人に名前を覚えてもらえるような医者です。しかし、医師になるのは容易なことではありません。必要なことがいくつかあります。一つ目は、資格です。医師になるためには国家試験を持たなければいけません。国家資格を持つためには大学の医学部で学び、豊富な知識と学力を身に付けなければいけません。中学校、高校での勉強に努め大学受験に備えていこうと思います。二つ目は、体力です。医師は、労働時間が長く急患などがあり、睡眠時間が短そうです。中には、2日間で2、3時間の仮眠しかできない人もいと聞いたことがあります。部活動にも励み、厳しい仕事に耐えられる体力をつけていこうと思います。三つ目は、社交性です。多くの人と接する職業である医師は患者を不愉快にさせたり、不満を与えたりしてはいけません。患者を安心させることも仕事の一つだと思います。日頃の友だちとの接し方から少しずつ成長していきたいです。僕らが医師になりたい理由はいくつかありますが、その中の一つに地域の医師不足があります。現在地域の医師が不足しています。自分が医師になることで、少しでも地域医療に貢献できるようになりたいです。

■「部活動を通して学んだこと」 1-A 小林優花

(中略)中学校で1年間バスケット部で活動してきて、小学校で活動していた頃とは大きく変わったことが3つあります。まず、プレーの面で判断力を身に付けることができました。(中略)次に、精神面で大きく変わることができました。小学校の頃は自己中心的に行動していました。(中略)最後に行動面で大きく変わることができました。(中略)このようにして、行動面では時間を有効にすること、努力することを学びました。また先輩に対する敬語、挨拶などの礼儀も学ぶことができました。私は、部活動を通して、1年間でこれだけのことを学びました。残りの2年間も部活動を通して色々なことを学べそうです。これからも、この1年間で学んだことを忘れずに部活動だけではなく、普段の生活も頑張っていきたいです。



